

旧丸井今井の不採算事業を引き継いだ北海道丸井今井（札幌市、國方克彦社長）は、今春にも、フィットネス事業を本州大手のティップネス（東京・千代田、玉利俊彦社長）に売却する。施設の営業権を三億円弱で譲渡するとみられる。北海道丸井今井がグループ外に資産を売却するのは初めて。一方、ティップネスは東北以北への初進出とな



「プライオスポーツパーク」は丸井今井本社ビル内で営業する。今井の関連会社、丸井クレオスポーツ（札幌市、山崎靖則社長）が運営している。札幌市の丸井今井設を運営しており、二〇〇四年十二月期の売上高は前期比九割増の二百三十四億円。札幌を足がかりに北日本地域への施設展開を検討する。旧丸井今井は昨年十月末、札幌本店など存続店舗を運営する丸井今井と、不採算事業を整理・

を改装オープンする見通し。ティップネスは関東、中京、関西に計四十六施設を運営しており、二〇〇四年十二月期の売上高は前期比九割増の二百三十四億円。札幌を足がかりに北日本地域への施設展開を検討する。旧丸井今井は昨年十月末、札幌本店など存続店舗を運営する丸井今井と、不採算事業を整理・

北海道丸井今井の関連会社、マルイストア（札幌市）と藤む良（札幌市）が札幌地裁に特別清算を申請し、二〇〇六年度議員報酬を二〇〇六年度

二社の債権者は北海道丸井今井一社のみだが、「再建計画に沿った措置で、経営に影響はない」（丸井今井社長）と、二社に事業を統合し、事実上休眠していた。藤む良は

報によると、一月は六十七億五千三百万円と前年同月比二・八%減少した。前年割れば七月が九百九十九万、議員が九十万円。すでに昨年十二月まで期末手当の一〇%削減を続けてきたが、来年度から二年間の道職員の基本給一〇%カットを受け、議員報酬の削減を初めて実施することにした。

の影に入ると、一月は六十七億五千三百万円と前年同月比二・八%減少した。前年割れば七月が九百九十九万、議員が九十万円。すでに昨年十二月まで期末手当の一〇%削減を続けてきたが、来年度から二年間の道職員の基本給一〇%カットを受け、議員報酬の削減を初めて実施することにした。

日本ドアコーポレーション 木製防火シャッター

日本ドアコーポレーション（千歳市、高柳春幸社長）が防火型の木製ガラスシャッターというニッチ市場を開拓している。住宅が密集している場所に木製シャッターを設置する場合、防火上の理由で国の認定が必要になるが、同社は二〇〇〇年に初めて基準をクリア。木のぬくもりや高級感から富裕層を中心に人気が高まり、防火型では国内シェア九割を握る。

「デザインにこだわると顧客から木製シャッターの要望が増えている」。大手シャッターメーカーに勤めていた高柳社長は一九八九年、木製シャッターの需要が見込めると、発に着手。まず通常の住宅用木材を使用したのが、木はすぐにそり返り、炎が漏れてしまう。シャッターの厚さは三十五ミリ。当時の防火基準は二十分間の燃焼試験でシャッターが閉まった状態で炎が少しも漏れれば不合格

《会社概要》
設立 1994年10月
資本金 1000万円
社員数 5人
売上高 1億円
(2005年3月期)



受注生産でほとんどの工程が手作業（千歳市の本社工場）

「何とか基準をクリアできないか」。九九九年、道立林産試験場に協力を依頼。木は乾くとそり返るが、それがもとでミリの単位でもシャッターにすき間があく。そり返しの材を調達できた。第二の関門は木の板を

が、コストに見合うものはなかった。林産試験場の助言もあり、最終的には連日、接ぎ目に炎や煙が入り込まないように切込みの角度を調整する作業を続けた。表面加工で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターは受注生産

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

北からの創造 企業最前線

ニッチ市場 扉開く 富裕層取り込み 国内シェア9割

「デザインにこだわると顧客から木製シャッターの要望が増えている」。大手シャッターメーカーに勤めていた高柳社長は一九八九年、木製シャッターの需要が見込めると、発に着手。まず通常の住宅用木材を使用したのが、木はすぐにそり返り、炎が漏れてしまう。シャッターの厚さは三十五ミリ。当時の防火基準は二十分間の燃焼試験でシャッターが閉まった状態で炎が少しも漏れれば不合格

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。

「接ぎ目をふさぐ素材が必要だ」。国内外の三四社の化学会社を訪ねた末、熱すると数十倍に膨らむ発泡剤を発見。それを継ぎ目に挟むことで、延焼防止に成功した。開発から五年。「まさに背水の陣だった」（高柳社長）という二度目の試験で防火認定を受けた。本社工場で製作する木製シャッターの草分けとしての挑戦は続く。



北海道



札幌旭川
0000
1111
1163
1146
1122
1128
1121
1133
1122
1121
1155
1150
1141
1142

